

地域の医療施設と連携した 新興感染症想定訓練



会場：新潟県厚生農業協同組合連合会 上越総合病院

新興感染症に備えて

令和7年度第2回上越圏域感染対策ネットワークカンファレンス及び新興感染症を想定した訓練が、上越総合病院で開催されました。同訓練は、高度な感染対策体制を構築・運用され、地域の感染症対策の中核を担っておられる、さいがた医療センター、新潟県立中央病院、上越総合病院の3施設により合同で開催されました。研修会の内容は、感染管理や上越地域における感染症の発生状況に関わる情報共有のほか、新興感染症を想定した訓練も実施されました。当日は、感染対策向上加算*1を取得している上越地域の約40施設から約60名が参加され、当社もN95マスクの漏れ率測定の実践として参加いたしました。

*1 感染対策向上加算… 2022年度の診療報酬改定にて新設された診療報酬制度で、医療機関が感染症対策を強化する取り組みに対して評価される。医療機関が院内感染を防ぐための体制を整えたり、地域の医療機関と連携して感染症対策を進めたりすることが求められる。

プログラム

1. 開会の挨拶
2. 討議事項
 - 1) 事前報告議題の検討
 - ① 抗菌薬使用状況
 - ② 外来における経口抗菌薬の処方状況
 - ③ 耐性菌分離状況
 - ④ 手指消毒剤使用状況
 - 2) 地域の感染症情報（上越保健所医薬予防課）
3. 新興感染症を想定した訓練
 - ① N95マスクのフィット測定
 - ② タイベック®の着脱訓練



開会のご挨拶

さいがた医療センター
精神科 医師・ICD 石丸 直樹 様

地域全体で情報を共有できることはとても重要なことであり、これからも継続的に行っていききたいとのご挨拶がありました。

■感染症の最新動向を共有

カンファレンスの前半では、上越保健所 医薬予防課の高橋様より、上越地域の感染症の発生状況についての情報が共有されました。夏季に流行した百日咳や新型コロナウイルス感染症の発生状況のほか、他県でインフルエンザの発生時期が例年より早く流行が始まっている状況等が報告されました。また、高齢者施設や障がい者施設等における結核などの発生状況にも触れられ、各医療機関においては、今後も引き続き情報収集に努め、慎重な対応をお願いしたいとお話がありました。

■新興感染症の情報入手と、 役割や対応を平時から検討、確認しておく

新興感染症の想定訓練のはじめには、さいがた医療センターの浦沢様より、新興感染症の定義や、1976年のエボラ出血熱、2009年にパンデミックとなった新型インフルエンザ等、近年発生した新興感染症のおさらいがありました。



さいがた医療センター
感染管理特定認定看護師
副看護師長 浦沢 昌恵 様

新興感染症は、今後も日本に入ってこないという保証はなく、いつどこから侵入するか分かりません。したがって、万が一自施設にて発生した場合に備え、あらゆるケースを具体的にイメージし、役割を確認し、どのような対応を行うかについて検討しておくことの重要性が伝えられました。

想定事例として、「他国で気道症状*2を伴う未知の感染症が発生している、日本国内では未発生の段階、国内での法的な整備はされておらず明確な対応が決まっていない」という状況をイメージして、自施設で患者を受け入れる場合の、空気感染に対応できる診察室や個人防護具（以下、PPE）の準備が必要なことなどの説明がありました。

*2 鼻や喉などの炎症に伴う症状のこと。

平時から地域や関連施設と連携を

日本では新型コロナウイルス感染症の拡大を経て、さまざまな新たな知見や感染防止技術、情報サービスが進化しました。今後、再び感染症が発生する可能性を踏まえると、保健所や消防、病院・高齢者施設などの近隣施設と連携を構築し、平時から合同訓練を実施するとともに、PPEを備蓄しておくことが重要であるとお話しされました。特に、地域全体と医療機関、保健所、消防、高齢者施設などが横のつながりを持ち、困ったときに相談できるネットワークを、このカンファレンスの機会に構築してほしいと述べられました。





グループごとにフルPPEを装着

■新興感染症を想定した訓練

カンファレンスの後半には、参加者がグループに分かれ、患者受け入れ時を想定したPPEの装着訓練が実施されました。防護衣、ゴーグル、手袋、フェイスシールドは、当日用意されたものを使用し、N95マスクは各自、自施設から持参したもので装着訓練を行い、各グループにJAICNのスタッフが付いて装着指導が行われました。

装着順、脱衣順の重要性

浦沢様の講義の中で、PPEの装着・脱衣には訓練が欠かせないこと、特に患者対応をした後は感染リスクが高まっている状況にあることから、脱衣の順番が非常に重要だと述べられました。また、間違えやすい装着・脱衣の順の覚え方を参加者の方々に紹介されました。

装着順

が・ま・ご・て
【ガウン→N95マスク→ゴーグル→手袋】

脱衣順

て・ご・が・ま
【手袋→ゴーグル→ガウン→N95マスク】

普段使っていないPPEの課題

参加者の中には、フルPPEの装着が初めての方もおられ、戸惑う様子が見られました。特に、N95マスクについては自施設から持参した備蓄品であったものの、普段使

用していないものであったり、しめひもの付け方が分からなかったり、装着後にゴーグルと干渉して、マスク、またはマスクとゴーグルの両方がズレたりと、訓練を通じて初めて気づかれた課題も多く見受けられました。

また、研修会を通じて、N95マスクの保管期限に関して「N95マスクはいつまで使えるのか」というご質問を数名の方からいただきました*3。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大時に世界的にマスクが欠品した影響から、施設には多めに購入されたり、国や自治体から供給支援を受けたりした製品が未だ多く備蓄されているようです。

*3 弊社のN95マスク「ハイラック350型」「ハイラック375型」の保管期限は製造から5年間となっています。

普段使っているPPEを少し多めに在庫して 平時から使いながら、有事にも備える ～回転備蓄～

訓練では、普段使用しているものを2カ月分多めに購入し、使いながら備蓄をしておく回転備蓄（ローリングストック）が紹介されました。その方法であれば、使い慣れたPPEであることから、いざ患者を受け入れる時にも慌てずに適切な防護が得られるというものです。

自施設に備蓄されているPPEは、定期的に保管期限を確認するほか、保管期限が切れてしまったものは、装着訓練や新人教育、またはマスク選定の比較検討に有効に使用することをおすすめします。

備蓄物品のリスト

各施設の使用状況を考え、
おおむね2カ月分の在庫を準備する

■個人防護具 (PPE)

- ・サージカルマスク
- ・N95マスク
- ・アイソレーションガウン
- ・非滅菌手袋
- ・フェイスシールド
- ・ゴーグル

■その他

- ・アルコール擦式手指消毒剤
- ・環境清拭クロス
- ・感染性廃棄容器 その他

研修資料を参考に当社で作成

■N95マスクのフィット測定

新興感染症の感染経路が空気感染と想定された場合、または感染経路が不明な時、エアロゾル発生手技*4を行う場合には、患者対応を行う医療スタッフはN95マスクを使用します。

研修会では、全ての参加者にN95マスクのフィット測定（漏れ率）を体験いただきました。N95マスクは高性能なマスクではありますが、着用者の顔に正しく装着されていなければその効果を発揮できません。

“フィット感”ではなく“漏れ率”として定量的に確認

使用するマスクを取扱説明書どおりに装着し、シールチェックを行ったあと、マスクの漏れを定量的に測定できるフィッティングテスターを使用して自施設のマスクの漏れ率を測定しました。参加者からは「漏れているよ

うな気がしていたが、数字で見ると“やっぱり”、「漏れていないか不安だったけど、漏れ率が低くて自信がついた」というコメントをいただきました。

*4 気管挿管・抜管、気道吸引等の医療行為で患者の呼吸器からエアロゾルを発生させる手技のこと。



排気弁付きN95マスク「ハイラック375型」を装着して、マスクのフィット測定を実施

閉会のご挨拶

上越総合病院 呼吸器内科部長 清水 崇 様

パンデミックは10年に一度、やってくると言われていています。このような研修会で普段から訓練を行っておくことで患者はもちろんのこと、スタッフと地域医療を守ることができると思います、と総括されました。

上越圏域感染管理ネットワークJAICNの皆さま



(後列左から) 村田 忍様¹、瀧澤 由佳様²、小出 早苗様²、丸山 芽吹様² (前列左から) 武江 円様¹、山下 佳美様²、浦沢 昌恵様³

1 上越総合病院 2 新潟県立中央病院
3 さいがた医療センター

当医療機関が所属する圏域内において、感染対策ネットワークカンファレンス及び新興感染症を想定した訓練を開催しました。

今回は、新興感染症のパンデミックを想定した対応に関する講義に加え、防護具の着脱演習と、N95マスクの定量的な漏れ率の確認を行いました。今回の参加者にとっては、フィッティングテスターを使用したN95マスクの漏れ率の確認は初めての体験となる方が多く、自分にフィットするN95マスクを知る貴重な機会となりました。また、実際に防護具の着脱を体験することで、正しい手順や注意すべきポイントを改めて確認することができたと思います。

今回の訓練を通して、地域内の医療・介護施設が共通の理解を持ち、定期的に感染対策を学び合うことの重要性を再認識しました。今後も継続的に実施することで地域全体の感染対策力の向上に寄与できると考えています。

(さいがた医療センター 浦沢 昌恵様)

研修会で紹介したN95マスク「ハイラック」シリーズ

ハイラック350型



感染症対策マスクのスタンダードタイプ

ハイラック375型



排気弁付きで呼吸が楽なタイプ



ハイラックシリーズの装着方法は動画でもご覧いただけます

「ハイラック」装着動画

